

人権教育に関する特色ある実践事例

基準の観点 地域や関係諸機関との積極的な連携・協力が行われている実践事例

1. 基本情報

都道府県名及び市町村名

鹿児島県大島郡龍郷町

学校名

龍郷町立龍郷小学校

学校のURL

<http://www12.synapse.ne.jp/tatsugosyo>

2. 学校紹介

学級数

【通常の学級】1年，2年，3年は各1学級，5年，6年は複式学級【合計】4学級

児童生徒数

【全児童数】28人（平成23年11月8日現在）
（内訳：1年6人，2年5人，3年6人，5，6年11人）

学校の教育目標、人権教育に関する目標など

【学校の教育目標】

「自ら学び、心豊かで、たくましく『生きる力』を備えた子どもを育成する」

【人権教育に関する目標】

「自他の人権を大切にし笑顔輝く龍郷っ子の育成の在り方」

～子ども相互の関わり合いを通じたコミュニケーション能力の育成～

人権教育にかかる取組の全体概要

【取組の重点事項】

人権に関する知的理解の深化と人権感覚の育成

- ・ 学校生活における人権教育の充実
- ・ 人材活用の推進
- ・ 人権に関する環境づくり
- 一人一人の存在や思いを大切に学習指導法の改善
- ・ 個人カルテを基にした個別指導の充実
- ・ 個の伸びを大切にする学習記録の積み上げ
- ・ 学習活動における個と集団との関わり合いの重視
- 人権教育に関する職員の資質向上
- ・ 人権尊重の視点に立った研究授業研修の充実
- ・ 人権に関する各種職員研修の充実
- 「行動・貢献する力」の育成を目指した人権教育の推進
- ・ 「広がれ！龍郷小学校もっとほっと活動」



【人権、郷土、環境を基軸とした教育理念】

3. 特色ある実践事例の内容

地域や関係諸機関との積極的な連携・協力が行われている実践事例

「広がれ！龍郷小学校もっとほっと活動」

(取組のねらい)

地域について学ぶことで、地域の方々の思いにふれ、自分たちに向けられた期待を実感させる。

地域の一員として生きる喜びや満足感を深めることで、自発的に自他の人権を守ろうとする意欲をもたせる。

(取組を始めたきっかけ)

本校は、教育目標の実現の観点として、前年度まで「他者と関わる力」「自己をみがく力」「夢をえがく力」を中心に掲げ、自他の人権を大切にする子どもの育成を目指して、人権教育に取り組んできた。人権学習やひまわり集会(人権集会)、島口大会(方言による学習発表会)や八月踊り、自然体験学習など、子ども相互の関わりや地域の方々とのふれ合いを通して、自己肯定感や自尊感情が高まりつつある。

また本校は、小さな集落の中に位置しており、地域の方々の諸教育活動に対する関心が高く、支援体制が充実し、様々な学校行事には子どもたちを励まそうと、たくさんの方々が応援に駆けつけてくれる。そのような環境の中で子どもたちが地域に支えられ、見守られながら、すくすくのびのびと育つことができる教育的風土が残っている。

そこで本年度は、子どもたちが主体的に、みんなで協力しながら学習に取り組めるようにするため、「行動・貢献する力」を教育活動の新たな観点として位置付けた。「いつも支えてもらったり、見守ったりしてくれる地域の人たちに、自分たちは、地域の一員として何ができるかなあ」という子どものつぶやきがきっかけとなり、ひまわり集会で話し合い、各学年で考えて取り組んでいくことにした。

(取組の内容)

「行動・貢献する力」の育成を目指して、次の3点を中心に取り組んだ。

「もっとほっとの木」の作成

「もっとほっと新聞」の発行

全校体制による地域へ行動・貢献する活動の推進

「もっとほっとの木」の作成

他者を大切にする人権感覚を高めるために、定期的に葉っぱの形のカードに、友達のよさを見つけてメッセージを記入し、それを校庭の掲示板上に設置してある「もっとほっとの木」に貼付している。メッセージカードは、各学年で作成し、毎月の児童集会で全児童に紹介している。

「もっとほっとの木」の作成は2年目を迎え、メッセージカードに書かれている内容も初めは、友達のよいところに気付いたことを書いてある内容が多かったが、次第に、友達のよいところを自分にも取り入れようとする内容や、身近な大人や地域の方のよさにも気付く内容のカードが増えてきた。

また、相手をあらかじめ決めて、よさを発見



校庭掲示板上に設置した「もっとほっとの木」

する活動も取り入れ，視野を広げるとともに，どの子にもメッセージが届くように配慮した。

「もっとほっと新聞」の発行

子どもたちの思いや，学校での様子を保護者や地域の方々に，もっと知っていただきたいという思いから，毎月発行している学校便りの裏面に「もっとほっと新聞」を掲載して，校区内の全戸に配布している。

「もっとほっとの木」に貼られているメッセージカードの中から学年ごとに抽出したものや，それに対する職員のコメントも載せている。新聞に掲載することで，よさを認められてカードに書かれた子どもはもちろんだが，そのよさに気付いてカードに書いた子どもも，他の子どもたちや保護者，地域の方々からの称賛の声が届き，自己肯定感や自尊感情の醸成につながっている。

【メッセージカードの紹介】

- ・ さんへ，いつも大きな声で発表ができてえらいです。
- ・ さんは，いつも昼休みにリコーダーをがんばっています。わたしも練習しようと思います。
- ・ 用務員の さん，いつもきれいなお花をさかせてくれてありがとう。
- ・ 道路を横断しようと待っていたら，軽トラックのおじちゃんが，水たまりをよけて走ってくれたのがうれしかったです。



廊下に設置した「もっとほっと新聞」コーナー

全校体制による地域へ行動・貢献する活動の推進

地域の一員として自分たちは，地域に対してどんなことができるかを，学年ごとに考え，「龍郷小学校もっとほっと活動」と称して，右図のような流れで年間を通して取り組んだ。

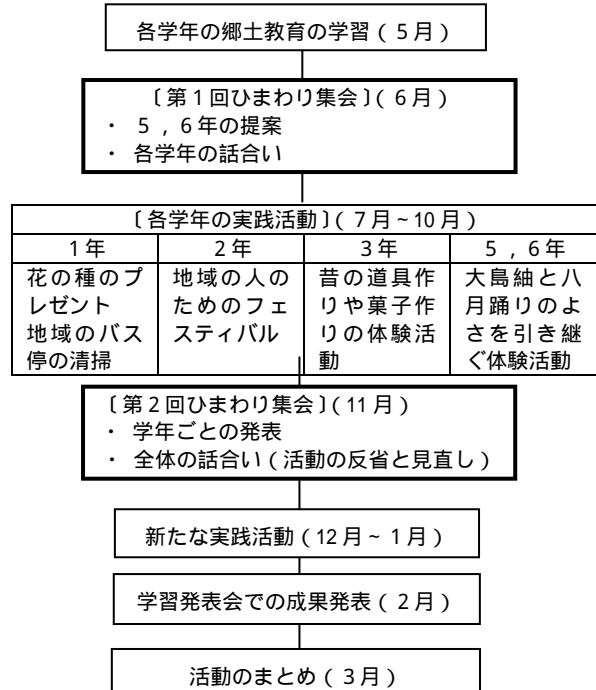
そして，これまで6月と11月の校内人権旬間に実施してきた「ひまわり集会」を，話し合い活動や活動発表の場として，「もっとほっと活動」の核に位置付けた。

6月に開催した〔第1回ひまわり集会〕では，各学年の郷土教育の学習を踏まえ，自分たちが，地域に貢献できることがあるのではないかという5・6年生の提案を基に，学年ごとに話し合い，実践活動計画を立てた。

以下に示すように，学年の発達の段階や特性を生かした活動に取り組むことにした。

〔第2回ひまわり集会〕では，学年ごとの活動を報告して，今度は，みんなでやってみたいことを話し合った。「ぼくたちも，八月踊りを踊れるようになりたい」という1年生や，「バス停がきれいになって，みんな喜んでいてと思います」と感想を述べる6年生など，それぞれの活動のよさや楽しさをみんなで見つけて，今後の活動への意欲を高め合うことができた。

「広がれ！龍郷小学校もっとほっと活動」計画



各学年の活動計画

	活動テーマ	主な活動内容
1 年	ここにこ大作戦	<ul style="list-style-type: none"> 育てた花の種を贈ろう。 地域のバス停をきれいにしよう。
2 年	あつまれみんな	<ul style="list-style-type: none"> 地域の人を招待してフェスティバルを開こう。
3 年	タイムマシーンにのって	<ul style="list-style-type: none"> 昔の暮らし(道具や料理)を学んで、地域の人たちとふれ合おう。
5, 6 年	奄美の歴史に学ぼう	<ul style="list-style-type: none"> 大島紬と八月踊りのよさを引き継ごう。

各学年の実践紹介

1年生



バス停をきれいにしよう

集落にあるバス停の掃除をした後、壁面にペンキで絵を描きました。

2年生



フェスティバルを開こう

生活科で作成した小物を販売したり、ゲームを作って、一緒に遊んだりしました。

3年生



地域の方を招待してお礼をしよう

アダンの木根で作った筆とハガキで招待状を作り、郷土のお菓子を作って、地域の方々に楽しんでもらいました。

5・6年生



八月踊りを教えてもらおう

大島紬の泥染め体験で、Tシャツを染めたり、八月踊りの唄と踊りを地域の方から習ったりしました。

4. 実践事例の実績、実施による効果

(取組の実績)

- 子どもたちの出番づくりや人材の活用，環境整備・設営等を整えることで，人権感覚の育成につながった。
- 学ぶことの楽しさや，望ましい人間関係づくりが，子どもたちの学習への意欲を高め，「確かな学力」を身に付けるための土台となった。
- 高学年の子どもたちが，進行，司会，記録を担い，低学年の子どもたちにも気を

配りながら集会活動を進めるなど、自主的な態度や行動が多く見られるようになった。

- ・ 「行動・貢献する力」の育成という観点で、地域に根ざした人権教育を推進できた。
- ・ 取組を進めていく中で、子どもや地域の方々の思いなどに気付いたり、信頼関係が深まったりするなど、職員の人権意識や資質・能力が高まった。
- ・ 教育目標の具現化の柱として、これまで「人権教育」「郷土教育」「環境教育」に自他のよさを大切にするという観点を基盤に据えて取り組んできたことにより、教育活動全体を人権尊重の視点から捉え直すことができた。

(取組が効果を上げた実際の事例)

地域の伝統行事「種下ろし」に、八月踊りを子どもたちだけで披露

毎年、伝統行事として各集落で「種下ろし」の行事が行われるが、過疎化、高齢化のため、伝統芸能である八月踊りの唄と踊りの伝承が難しくなっている。

今回、5、6年生が地域の方々から学んだ八月踊りの一部を、行事の中で実際に子どもたちだけで披露する機会を得た。男性と女性でそれぞれ異なる唄と踊りの掛け合いを見事に披露できた時、踊りを見守った地域の方々から称賛の拍手と歓声が上がった。

後日、子どもたちの発表に刺激を受けた地域の方々から、八月踊り保存会の練習に子どもたちも参加してほしいと依頼があった。島の伝統文化の継承に子どもから大人まで、世代を超えて取り組もうとする機運が高まってきた。



集落の共同倉庫に子どもたちの絵を描く

1年生がバス停に描いた絵が好評であったので、今度は、集落の共同倉庫の壁面にも絵を描いてほしいという依頼があった。

1年生だけでは大変なので、地域の子ども会活動の一環として、全校児童で取り組んだ。

3面の壁面に、グループごとに分かれて、龍郷の自然のすばらしさを表す絵をそれぞれ描いた。地域住民の方々に親しまれ、たくさん好評をいただいた。



5. 実践事例についての評価

(取組についての評価)

- ・ 年間を通して、各学年の発達の段階や特性を考慮しながら、それぞれの教育活動を総合的に関連付けて、意図的・計画的・継続的に活動できたことで、子どもたちの人権感覚を高め、自己肯定感や自尊感情を確実に積み上げることができた。
- ・ 地域への行動・貢献という観点で、地域の一員として自分たちなりに地域に貢献できる活動に取り組んだことで、子ども相互や地域の方々とのコミュニケーションを深めることができた。また、地域と共に生きる喜びや満足感が深まったことで、

自他の人権を守ろうとする意欲がさらに高まった。

- ・ 地域との関わりを通して、地域の人々や環境のすばらしさを体感でき、郷土の風土に親しみ、郷土のよさを理解し、郷土を好きになる子どもの育成に貢献できた。

(保護者や地域住民からの反応)

- ・ 6月と11月のひまわり集会を地域の方々に公開したり、年間を通して全校体制で地域との関わりを深めたりしたことで、地域住民の学校教育に関する関心度や理解度が高まり、子どもたちや学校を身近に感じていただけるようになった。
- ・ 地域の一員として、子どもたちの地域に対する行動・貢献する姿に地域住民も触発され、地域の伝統文化や行事、自然環境を自分たちも大切に守り伝えていこうとする機運が高まってきた。

第2回ひまわり集会(11月)に参加した地域の方々からの声

- ・ 初めて参加しましたが、1年生から6年生まで全員が、堂々と発表している姿がとてもすばらしかったです。様々な体験を通して人との関わりを学び、いろいろな発見をしながら成長する姿を感じることができました。
- ・ それぞれの学年が、地域の方々との関わり合いや、伝統を大切にしていくために、真剣に話し合い実践している姿に感動しました。自分たちも、子どもたちと共に、何ができるかを考えさせられる集会になりました。
- ・ この集落に住み始めて数年…。私も地域の人たちとの交流や地域の一員として何ができるか一緒に考え、みんなとやっていけたらと思いました。
- ・ これからも龍郷のことをたくさん知って、地域のみんなと一緒にふれ合ってください。そして、もっともっと龍郷を好きになってね。

(現在、実施にあたって課題と感じていること)

- ・ 今回の取組を今後も継続して、活動の深化・充実を図っていきたい。
- ・ 小規模校のため、学年の人数の減少により、取組の継続や活動の充実が難しくなってくるのが予想される。そのため、学年の枠を超えて、低学年、中学年、高学年や下学年、上学年といった枠組みや、全校体制で取り組む活動に移行する必要がある。

【 人権教育の指導方法等に関する調査研究会議によるコメント 】

龍郷町立龍郷小学校

「他者とかかわる力」「自己をみがく力」「夢をえがく力」に加え、今年度から「行動・貢献する力」を教育活動の柱とし、人権教育を基盤にした教育活動を展開している。人権教育では、意欲や態度の形成に止まるのではなく、実践的な行動力を育成することが求められるのであり、当校は、そのことをしっかりと見据えて、教職員の共通理解のもと、着実に実践を進めている。

多様で価値ある取組の中で、特に着目したいのは、「ひまわり集会」を中核にして「集団決定」「自己決定」「実践」「振り返り」という一連の学習過程を構成し、行動する力を育てている点である。また、新聞を発行したり集会には保護者や地域の人々が参画したりして、児童の真剣な姿勢が地域に波及し、地域の意識を変えている点である。地域の人たちの期待を実感し、自己有用感と自信に満ちた児童が育っている。